新任学部長に聞く

任期満了に伴う3学部長の改選が、各学部教授会で行われ、経済学部長に内山哲朗教授、文学部長に廣瀬玲子教授、人間科学部長に山上精次教授が選出された。経営学部長の馬場杉夫教授は再任された。任期はいずれも本年9月1日から2年間。新任の3教授に学部の在り方、求める学生像などをお聞きした。

馬場杉夫（ばばすぎお）経営学部長

内山哲朗（うちやまてつろう）　経済学部長

現在の経済、社会に〝素直な問い〟を

「グローバリゼーション」という名のもとに、世界も日本もいま大きな変動の波に洗われています。その先にいかなる社会・経済の姿を描くべきなのか、それが深く問われるいまの時代だからこそ、私たちの暮らしの場である社会の基盤としての「経済」を学ぶことには、大きな意味があるのではないでしょうか。

それだけに、学生の皆さんには、社会・経済の動向を「自分の目」で確かめる能動的な姿勢をぜひとも身につけてほしいと願っています。そのためには、「素直な問い」をしなやかに発してみることが大切でしょう。

例えば「そもそもグローバリゼーションとは何なのか？」「グローバリゼーションがなぜ、これほどまでに進行していったのか？」「グローバリゼーションの正の側面と負の側面とはどのように絡み合っているのか？」等々、確かめてみるべき問いは際限なく連鎖しています。こうした問いに、自分なりに説明を与えてみようと発想するところからはじめて、能動的な思考も芽生えるのだと思います。

変動の激しい「経済」の多様な諸側面をとらえるために、経済学科として「歴史と発展」「福祉と環境」「企業と情報」「市場と政府」という4つのコースを設定し、国際経済学科として、ヨーロッパ・アメリカ・アジアをはじめとする「地域研究」および環境・民族・宗教等を対象とする「問題群研究」を中心に位置づけています。

学生の皆さんが自らの所属を足場にして「能動的な思考」をいっそう鍛えていくための学修環境づくりに、経済学部の総力を挙げてこれからも取り組んでいきたいと考えています。

【略歴・横顔】一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。工学院大学、明治大学講師などを経て、2001年本学教授。専門は社会的経済・社会運動論。「社会の中の経済のあり方を自分の目を頼りに考え続けていってほしい」と話す。趣味はサッカー観戦。長野市出身。63歳。

廣瀬玲子（ひろせれいこ）　文学部長

総合的な言語能力で未来を切り開こう

「文学」は古い中国語では学問全般を表す言葉。また、「文」には模様や飾りという意味があります。夜空に耀く星が天文。山や川、森林や砂漠が大地に描くのが地文。そして天地のあいだに生きる人が織りなす模様とはさまざまな文化であり、文字や言語がその核となっているのです。

「文学」や「文」には本来こうした広い意味があるのですが、専大文学部はまさにその名にふさわしい学部です。7学科と多彩で他学科の科目も選択できるので、学生は幅広い視野を養っています。

文献を読み、現場に足を運び、人の言葉に耳を傾け、深い思考を経て自らの言葉によって成果を表現する。こうした総合的な言語能力を高めるために少人数教育に力を入れ、全ての学生がゼミナールで学び卒業論文か卒業研究を完成させます。その過程で培われた知性と自信は、未来を切り開く力となるものです。

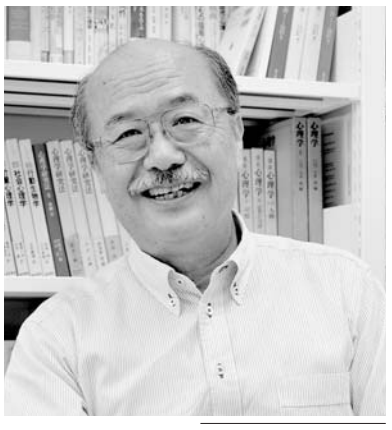
学生には人と関わる力を身につけ、読めるだけでもいいので何かしら外国語に親しんでほしい。成り立ちや発想の異なる言語で多面的にとらえることで、見えてくるものがあるからです。

「仁」といわれてもぴんとこないとしても「ヒューマニティー（人間らしさ）」と置き換えれば、分かりやすくなりませんか。2つの言語を行き来することで世界が広がるんですね。

人としての総合力を身につける学部であることを発信したいと思います。

【略歴・横顔】東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。1997年本学助教授、2003年教授。専門は中国文学。06年パリに在外研究留学。父親の転勤が多く、高校までは何度も転校した。米国滞在中（中2から高1まで）は現地の学校に通った。

山上精次（やまがみせいじ）　人間科学部長



心の仕組み、社会……実証する考え方を

心理学と社会学の2学科から成る人間科学部は、実証的な学習を中心に据えています。

学部誕生から5年目を迎え、前任の宇都榮子教授の采配によって確立した路線を継承し、展開させていきたいと思います。

「心」の仕組みを実験や観察によって確かめる実験心理学と、カウンセリングなどの実践に取り組む臨床心理学。これらを総合的に学ぶ心理学科。聞き取り調査によるフィールドワークに重点を置き、さまざまな現象を見聞きし、考え、調べ、分析することによって社会の中の人間相互の関係を明らかにする社会学科。いずれも面倒見のいい教員のもと、行き届いた少人数教育を実践しています。

ソフト面・ハード面ともに学びやすい環境を作っていきます。一例として、時間外や休日の実習室使用の拡大が挙げられます。運用面の工夫一つで学習効果は上がるのです。

また、教員ができるだけ多くの時間を学生のために使えるよう「人」と「時間」の有効活用も大切です。

できることからコツコツと進めていきたいと思っております。

物事に取り組む時に常に「実証する」という考え方を身につけてほしい――学生の皆さんに望みたいことです。

【略歴・横顔】東京大学大学院人文科学研究科心理学専修課程博士課程単位取得退学。1979年本学文学部講師。助教授を経て89年教授。2010年人間科学部創設により同学部教授。専門は発達心理学。趣味は土いじり。群馬県片品村で25年ほど前から畑作業を続ける。試行錯誤の末「ようやく思うような土ができるようになりました。独特な触感と目が当たる際の匂いに接すると苦労が吹き飛びます」。それでも収穫は良い時ばかりではない。「教育現場と同じですね」。広島県福山市出身。66歳。

多摩区3大学コンサート

川崎市多摩区に立地する専修、明治、日本女子の3大学の学生による「2014多摩区3大学コンサート～水と緑と学びのまち～」（主催＝多摩区・3大学連携協議会、川崎市多摩市民館）が開催されます。

▽日時＝10月4日（土）14時開演▽場所＝多摩市民館ホール▽出演＝マンドリンクラブ（専修大学）／Wind Orchestra（明治大学）／フォルクローレ愛好会（日本女子大学）。入場無料。

問多摩区役所企画課☎044・935・3147

公開講座情報

人文科学研究所第3回公開講演会

▽日時＝10月13日（月）16時45分～▽場所＝生田キャンパス10101教室▽テーマ・講演者＝「カリブ海地域における演劇と言語―ポストコロニアルの現代から」エドワード・ボッ（ジャマイカの詩人、文学者、文学評論家）※通訳＝松田智穂子経済学部講師

申人文科学研究所E-Mail：jinbun@isc.senshu-u.ac.jp

大学院公開講座

PART1「経済学の基礎で読み解く経済問題」

金融、企業、国際経済、国際金融の4分野における経済学の基礎を解説、現代の経済問題を読み解く（全4回、聴講無料）。

▽期間＝10月3日～24日の毎週金曜日▽時間＝18時30分～▽場所＝神田キャンパス731教室▽講師＝石原秀彦／宮本光晴／伊藤恵子（以上、経済学研究科教授）／大倉正典同准教授

PART2「日本経済の展望：アベノミクス後のステージ」

日本経済の重要課題に焦点を当て、アベノミクス後を展望する（全4回、聴講無料）。

▽期間＝11月7日～28日の毎週金曜日※時間・場所はPART1と同じ▽講師＝櫻井宏二郎／田中隆之／中野英夫／西岡幸一（以上、経済学研究科教授）

申大学院事務課E-Mail：gkouza22@acc.senshu-u.ac.jp

エクステンションセンター公開講座「歴史を紐とく」

「〝モノ〟から探る日本の歴史」をテーマに、モノに秘められた事実を明かす（受講無料）。

▽開講日＝10月5日（日）、11日（土）、25日（土）の3日間▽時間＝10時30分～▽場所＝生田キャンパス10301教室▽講師＝荒木敏夫文学部教授／土生田純之文学部教授／湯浅治久文学部教授／川村晃正商学部教授／新井勝紘文学部教授／永江雅和経済学部教授

問エクステンションセンター事務課☎044・911・1268

太平洋に散った人気歌手―上原敏没後70年記念展―

戦前、流行歌手として一世を風靡した上原敏（昭9経学）。専大在学中は野球部で活躍。激戦のニューギニアに散った上原のドラマチックな生涯を、貴重な写真、レコード、ポスターなどとともに紹介する。本人直筆の軍事郵便の展示も。無料。

▽日時＝10月17日（金）～26日（日）10時～17時（会期中無休）▽会場＝神田キャンパス8号館今村力三郎記念ホール

問大学史資料課☎03・3265・5879

訃報

大野平吉氏（おおの・へいきち）・元法学部教授

8月10日、85歳で死去。1983年から99年まで在職。

担当は「刑法総論」。

加藤安彦氏（かとう・やすひこ）文学部教授

8月17日、58歳で死去。2003年から在職。文学部日本語学科長などを務めた。

主な担当は「日本語の語彙・意味」。